

区分・種別	県指定史跡		
名称	あおちりんそう はか 青地林宗の墓		
所在地	松山市御幸		
所有者	個人所有	管理団体	松山市
指定年月日	昭和26年11月27日		
解説	<p>青地林宗は、江戸時代後期の蘭学者である。彼ははじめ江戸浅草の曹源寺<small>そうげんじ</small>に葬られたが、昭和3（1928）年に青地家に縁のある来迎寺<small>らいごうじ</small>に改葬された。墓碑銘「青地林宗先生墓」は呉秀三<small>くれしゅうぞう</small>の筆で、改葬時に作られたものである。</p> <p>林宗は安永4（1775）年、松山藩医青地快庵の子として生まれ、名を盈<small>えい</small>、字は子遠、号を芳濬<small>ほうじ</small>といった。はじめ家業の漢方医を修めたが、のち蘭学を志し、通詞馬場貞由にオランダ語を学び、杉田立卿、宇田川玄真の諸家の指導を受けて蘭学者となった。</p> <p>文政5（1822）年幕府天文台訳局訳官に任ぜられ、杉田立卿とともに洋書翻訳に従事し、『医学集成』を著したほか、物理学の『格物綜凡』の訳出、我が国最初の物理学書『気海観瀾』等約100冊の書物を著作、翻訳したといわれる。天保3（1832）年水戸藩に招かれ、医員兼西学都講に就任したが、59歳で江戸で没した。</p>		

